

# 財団法人 北野生涯教育振興会

## 設 立 趣 意 書

わが国は、戦後30年の艱難辛苦をのりこえて、近年にいたり、ようやく政治・経済・社会的に自立ができるようになり、今や、真の国際的水準の技術革新と人材育成をはかることが急務の課題となっています。

一方、近代的産業化は、働く人々に高度の能力開発を要請する反面、働きがい、生きがいなど人間性の希求をも高める結果となっています。

さらに、学校教育のあり方、勤労年数の延長、平均寿命の延長、週休二日制への定着による余暇の増加などは、公私にわたる生活ならびに考え方に多大な影響を及ぼしていることも、見過ごすわけにはまいりません。

いわば、生産第一主義から福祉優先への屈折時期を迎えているという認識です。

そこで、これらのすう勢に対処する一つの方法として、人間のいくつかの発展段階の応じた学習があらゆる社会の生活領域の中で、誰でも、いつでも、どこでも、必要に応じておこなえる、いわゆる生涯教育の実践が考えられます。

しかしながら、生涯教育については、未だ統一された見解及び体系化が、整備されていないとはいえませんが、現段階においては、つぎのことがらを緊急に着手する必要があると考えています。

1. 先進諸外国の生涯教育の例を参考としながらわが国の実情に即した生涯教育体系を開発する。

このための実証的・実践的な研究を進め、合わせて、各種研究機関の整備・拡充を行う。

2. 家庭教育・学校教育・社会教育等の教育分野毎の障壁を取り除き、学習の必要を感じた時に、いつでも学べるような統合的な教育機会を提供する。

3. 生涯教育の指導者の養成・確保をはかるとともに、その身分の安定・処遇の改善をはかる。

私は、大正9年、スタンレー電気株式会社の前身である北野商會を創業して以来、こんにちにいる50余年の経験において、いかに“企業は人なり”とか“一年の謀は、米菜を植え、十年の謀は、樹を植え、百年の謀は、人を植える”ことが大切であるか身をもって知るにいたっております。

そこで、今般、社会から強い要請のある生涯教育の振興に、いくらかなりとも、お役に立ちたいと考え、この財団の設立を思い立った次第です。

この財団法人が、わが国における生涯教育発展の礎えとなり、いくらかなりとも知識、情操はもとより人間性豊かな人間形成にお役に立つことができれば望外の喜びであります。

昭和50年5月20日

設立代表者 北野隆春